

日光自然博物館 (仮称)

県の基本計画まとまる

〔解説〕

○第三セクター会社

地域開発や都市づくりの主役として、地方公共団体や国と民間企業との共同出資で設立された事業体。国や地方公共団体がやる仕事（公共セクター）に民間の資金と能力（民間セクター）を導入したもの。

総事業費16億円で

「日光・美しい自然の世界」をテーマに

栃木県が中宮祠の温泉駅前広場に建設を予定している日光自然博物館（仮称）の基本計画が、このほどまとまりました。

この施設は、単に正確な情報や科学的根拠に裏付けされた展示等ばかりでなく、楽しみながら知識や情報を得ることができるような施設内容を目指しており、同施設の設置を契機に、日光国立公園の利用者の増大と公園の適正利用がより図られ、更に、日光地域活性化のための起爆剤にもなることが期待されます。

見る観光から

体験観光へ

自然との触れ合いを求める人々の増加や、見る観光から体験観光へ、観光客の志向の変化に対応して、日光国立公園を訪れる多くの方々に、自然や文化に関する情報や知識を提供するとともに、観光産業の振興に寄与しようというもので、基本計画によると、建設場所は中宮祠大尻橋東の温泉駅前広場、約一八、〇〇〇平方メートルの敷地で、建物は高さ三階程度、建築延面積は約二、七〇〇平方メートルとお

り、自然光・照明等に配慮して、快適な雰囲気づくりにつとめ、身体の不自由な方やお年寄りにも利用しやすい構造も配慮されます。

中宮祠地区再整備の

目標施設に

利用施設計画では、統一テーマを「日光、美しい自然の世界」とし、大マルチスクリーンに日光の四季や催しもののほか、歴史などを、高品質の映像と音響で写し出す「映像ホール」。時間と空間を起えた疑似体験が楽しめる「体験ルーム」。ビデオやスライド

を使って、日光の自然などを解説するための「レクチャールーム」。ボタン操作で動く利用者参加型の「展示ルーム」。リーフレットやパンフレット、図書などにより日光の詳細な情報資料を提供する「観光情報提供スペース」など、中宮祠地区の再整備の目標施設と指しています。

第三セクター方式で

運営

総事業費は約十六億円で、事業主体は、建物と外構を栃木県、展示や映像設備などは県・東武鉄道(株)・日光市と地元・足利銀行(株)などが出資して発足する、第三セクター会社が当ります。

オープン後の経営主体は、前記の第三セクター会社が当り、独立採算により運営されます。年次計画によると、六十三

観光週間 8月1日～7日



年度に実施設計、六十四年度から六十五年度にかけて建築工事と展示施設工事、六十五年年度に外構・園地工事を行う予定です。

「とちぎ新時代創造計画」に基づいて建設される同施設は、日光国立公園を訪れた観光客が、もう一度来訪してみたいくなるような、魅力あふれる施設を目指しており、中宮祠地区のみでなく、日光市の観光産業の振興に大きな力となることが期待されます。